



SANJO ROTARY CLUB

三條ロータリークラブ 週報 No. 24

2010.1.6 (No.2575)

第2560地区ガバナー／植木 康之
 会 長／菊池 涉
 会長エレクト／樺山 仁(クラブ奉仕A)
 副 会 長／山田 富義(クラブ奉仕B)
 幹 事／松永 一義
 S A A／成田 秀雄
 会 計／石月 良典

例会日／毎週水曜日12:30～
 例会場及び事務局／
 三條市旭町2-5-10 三條信用金庫本店内
 例会場／TEL 34-3311
 事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095

E-mail: sanjo-rc@cpost.plala.or.jp
 http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/
 (〃はshiftを押しながら“へ”のキーを
 押ししてください)

■本日の出席会員数:55名中43名
 ■先々週出席率:86.0%

【ヴィジター】

三條北RCより
 ・梨本建夫さん

【先週のメイクアップ】

- [12.17] 燕RCへ
 ・渡邊喜彦さん、西川文夫さん
 ・加藤紋次郎さん
- [12.21] 三條南RCへ
 ・五十嵐晋三さん、渡邊喜彦さん
 ・西川文夫さん、山田富義さん
 ・田中 仁さん、石月良典さん
 ・加藤紋次郎さん
- [12.22] 三條北RCへ
 ・斎藤弘文さん、杉山幸英さん
 ・五十嵐浩さん、西川文夫さん
 ・小越憲泰さん、渡邊喜彦さん
 ・浅野金治さん
- [12.28] 三條南RCへ
 ・藤田絏一さん、杉山幸英さん
 ・加藤紋次郎さん、丸山行彦さん
- [12.29] 三條北RCへ
 ・石橋育於さん、藤田絏一さん
 ・加藤紋次郎さん、田中 仁さん
- [12.31] 三條東RCへ
 ・藤田絏一さん
- [12.22] 三條南RCへ
 ・斎藤弘文さん、加藤紋次郎さん



「ロータリーの未来は、
 あなたの手の中に」

2009～2010年度国際ロータリーのテーマ

季節のお花(万両)



会 長 挨拶

菊池 渉 会長



新年おめでとうございます。年頭にあたり
 ご挨拶申し上げます。

皆様はいかがお正月をお過ごしだった
 ことでしょうか？

私のお正月は可哀想なもので、大晦日午
 後11時30分には東別院に出掛けます。除夜
 の鐘、修正会(お正月のお勤め)を終えて
 元旦の1時過ぎに帰宅、大急ぎでお風呂に入り冷たくなつた
 体を温めて就眠。5時に起きて犬と散歩。浄圓寺の修正会を済
 ませて、家族でお雑煮を囲むや否やピンポンと年始のお客。
 お寺に一番乗りすることを一年の最初の目的にしているよう
 な人がおられるので、お餅もゆっくり頂けません。それから
 三ガ日、いったいどれだけの人に「新年おめでとうございます」
 と言ったことやら。

皆さんは何回くらい言いましたか？では、いったい何故お
 正月がおめでたいのか、お考えになったことはございますか？
 最近お正月がお正月らしくないと思われませんか？

何を食べても特別ではなくなった。何をしても「正月らしい」
 ことがない。

私の子供の頃のお正月は実にお正月らしかった。特別でし
 た。大晦日には早くから風呂に入れさせられて、今ならお風
 呂を頂くのは大好きなんです、子供の頃はイヤでした。そ
 んな風呂に早くから入れさせられて、風呂から上がるとパン
 ツからシャツまでみんな新品。これも今では新しい下着など
 当たり前ですが、黄色くなるまで繕った下着を着ていた頃で
 すから、それだけで特別でした。

夕食は普段と違う茶の間でお膳でした。当時住み込みの役僧さんもいたのですが、みな改まった顔をしていました。そして毎年親からこう言われました。「明日の朝になると年が改まる。そしてお前も一つ大人になるんだ。しっかり勉強するように」と。

年号が改まる。そして自分も一つ大人になる。新しい下着で新しい自分を迎える。だから「おめでたかった」し「新しかった」。

私の子育ての真っ最中、「大晦日の夕食は何か食べたいものはないか？」と家族に問うても「別に…」との返事。息子に「君は明日から一つ大人になるのだから…」と訓じると、「お父さん、僕の誕生日忘れたのか？」と問われる。

お正月にお餅を食べない家庭があるという。「おはよう」といわない家庭もあるという。

一年中何を食べてもいい、「おはよう」も言わなくてもいい。みんなどんなに勝手な生き方をしてもいい。バラバラでいい。けどお正月だけは、元日の朝だけは日本中の人々が「明けましておめでとうございます」と挨拶して、バターを塗ろうが焼こうが煮ようが何でもいからお餅を食べる。みんな一斉に新しい年号と共に年をとる。それが日本人のアイデンティティである。そんなことを考えた年頭でございました。

本年も宜しくご指導賜りますように。

幹事報告

松永一義 幹事

◎新潟南RCより、創立50周年記念式典ご出席のお礼が届いております。

◎植木ガバナー事務所より、2008-09年度RI会長から1,000ドル以上ポリオへの寄付をされたクラブに対し、感謝状が届いております。

◎植木ガバナー事務所より、ガバナー・ノミニー決定のお知らせが届いております。

ガバナー・ノミニー 新潟RC所属 石本隆太郎 氏

◎高田RCより、2009-10年度ローターアクト地区大会のご案内が届いております。

と き 2月13日(土)

ところ デュオ・セレッソ(上越市)

◎村上RCより、創立50周年記念式典のご案内が届いております。

と き 3月28日(日)

ところ 大観荘 せなみの湯

◎にいがた災害ボランティアネットワークより、三条市長ふれあいトーク&新潟協学塾開催のお知らせが届いております。

と き 1月24日(日)

ところ 三条商工会議所 4階研修室

◎田中さんの送別会にクラブより記念品を贈呈。来週ボックスを回させていただきます。

ニコニコBOX

高橋一夫さん

明けましておめでとうございます。

今年もよろしく申し上げます。

菊池 渉さん

新年おめでとうございます。

今年もよろしく申し上げます。

高橋 司さん

明けましておめでとうございます。

今年もニコニコBOXよろしく申し上げます。

荻根澤隆雄さん

元旦早々に腰を痛めちゃいました。殆ど寝正月!!

新事務局 手塚さん、頑張ってください。

本年も宜しくお願い致します。

樺山 仁さん

明けましておめでとうとうございます。

RCが増々活気がつき、会員一同が健康に留意しながら諸活動に前進出来ますように。

高橋名誉会員の卓話に期待して!

西川文夫さん

あけましておめでとうございます。

クラブの皆様の御健康を祈念申し上げます。

中村和彦さん

昼はひつじですが、夜フトンに入るとトラになります。

今年もよろしく申し上げます。

石橋育於さん

新年おめでとうございます。

本日の卓話、高橋一夫名誉会員、大変ありがとうございます。

菊池会長、松永幹事、後半もよろしく願い致します。

船越正夫さん、 会田二郎さん、 五十嵐昭一さん、

五十嵐晋三さん、平原信行さん、丸山行彦さん、

熊倉昌平さん、山田富義さん、米山智哉さん、

あけましておめでとうございます。

本年もよろしく申し上げます。

高橋名誉会員、卓話ありがとうございます。

渋谷健一さん、 明田川賢一さん、松永一義さん、

斎藤真澄さん、 五十嵐浩さん、 若槻八十彦さん、

小出子恵出さん、斎藤弘文さん、金子俊郎さん、

小宮好智さん、 平沼潤一さん、 佐野勝榮さん、

小林敬典さん、 野崎喜一郎さん、小越憲泰さん、

武田真二さん、 伊藤寛一さん

新年おめでとうございます。

本年もよろしく申し上げます。

1月6日分 ¥52,000

今年度累計 ¥611,500

卓 話

高橋一夫 名誉会員



みなさん、明けましておめでとうございます。話が面白くないと悪いと思いましたのでニコニコboxに少し余計に入れておきました。それで喜んで頂けたらと思います。此処によせてもらおうと思うのですが10年位前にタイムスリップした

気がします。中学や高校の同窓会に集まって一時間も話をしていると50年60年簡単に昔に戻った気がしますが、環境というものが私たちに与える影響はたいへん大きいと此処に来ると思います。

来週は市長さんが来られてこれからの三条市に対する熱い思いを語られると思いますので私はその前座として昔の三条の事を話してみたいと思って上がりました。

私が昔の事というか考古学にどうして興味を持ったかを話します。

平成17年に旧三条市と栄町、そして下田村で合併を致しました。その時に三市町村の職員の方からそれぞれ13名位集まってもらって私の考え方、新しくなってきた戸惑いやこういう事をしたら良いのではないかと考えを聞きたいと思い機会をつくりました。時間があれば各部や出先機関の話を聞くようにして回っていた或る時、埋蔵文化財の部屋に行ったら職員でない若い女性がいたので声をかけると神奈川県出身で東海大で考古学を学んで下田役場に入りました。私が怪訝な顔をしていたのか彼女は私を見ながら「市長さん、三条市は金物の町として全国でも有名ですが下田の名前は考古学の世界では大変メジャーな名前なのです。日本全国何処の科学博物館や考古学博物館に行っても館長さんに下田です。と言えば分ってくださって、あの遺跡はどうなっているかと話が進むのです。私も数年前下田で遺跡の発掘の職員が募集された時に応募した30名程の中で選ばれたのです。」彼女は胸を張って話をしました。それから彼女から来週の日曜日新発田で遺跡の発掘の現地調査の発表があるから行きませんか。とか津南で縄文土器のフェアがあり、そこでは当時どんなものを食べていたか等見る余地があります。また長岡で今年県内で発掘した発表会がありますから。とか日曜日に私が公務の無い時は誘われながら勉強した、というかさせられました。そこで気がついたのは(新)三条は数万年前から人が住んでいて旧石器時代、一万二千年位前から縄文時代になるのですがその後の弥生時代、古墳時代、鎌倉・室町・平安時代と各年代の遺跡が全部

出る町です。それも只その辺から遺跡が出てきたというものじゃなくその時代々の相当貴重なものが出ているのです。彼女曰く一つの町で旧石器時代から各年代の遺跡がこの様なかたちで出るのは県内は勿論、全国でもないですよ。出てもある時代のものが無い。遺跡が出るのは人が住んでいた事ですから本当に珍しいと。それを聞いてから益々感心を持つようになりました。この前も新潟から遺跡の先生が来て調査したのを見て貰っているから来ないかと誘われ夕方はその先生を囲んで一杯飲んだりして益々考古学に興味を持たされているのです。今日はそんな事をお話してみたいと思います。

皆さんの手元に資料が行っていると思いますが、番号が振ってある①の槍ですが下田の遺跡で発掘された一万三千年位前のものです。これは鹿の角だとか固い木の脇に溝を彫って当時接着剤として使われていた天然のアスファルトを使って(当時使われたのは鉄岩)再製は黒曜石にしてありますが替刃式で埋めてあるのです。片側5~6個程埋めてあるのですがこれは獲物の大きさによって角度を調整して作られていたようなのです。これは替刃ですから1つが欠けてもまた新しいものを入れてやればいいし、その上量産が利く物なのです。これがデンマークやロシアでは一万五千年位前のものが出土していますが、ナウマン象や大鹿等と一緒に当時大陸と陸続きだった日本にやって来た。狩猟民が追いながらやって来て場合によって彼らの先祖が来て教えたのか、途中で来て武器だけが伝わり民族は来なかったのかわかりませんが優れたものです。これは昭和40年に中村孝三郎さんという長岡科学博物館長が調査をされた時に出たのです。本物は長岡科学博物館にあります。これはそれを模したレプリカです。そして、下田には三万年位前の石の斧も出ているのです。この旧石器の日本の石の斧は世界でも出てこない。どういう事かという石で作った斧の先を磨いてある。新石



①獲物の種類や大きさにより刃を変える。量産が容易。

器時代に入っているものは世界でも出てくるのですが三万年位前の旧石器時代のものは日本にしか出ない石斧で、こんなものも下田から出ています。それから②の土偶ですがこれは吉野屋から大体百体位出ています。掘ればまだあるらしいのですがこの時代には是だけの物が出ているのは県内では此処しかありません。今色々なかたちでこの吉野屋の遺跡は全国的にも注目されています。この吉野屋から長岡を経由して小千谷・十日町・津南のこの一帯は火炎土器が出る文化圏なのですが、吉野屋からも火炎土器が出ています。考古学の人達が言うのはこの遺跡をきちんと調べると日本人が何処から渡って来たのかという日本人のルーツが、もしかしたらわかるかも知れないという位に素晴らしいものです。③の岩偶は土偶と同じようなものなのですが石で出来ているものなのです。土偶は結構いろんな所で出ていますのだけれども岩偶というものは非常に珍しいものです。これは昭和48年に下田で発見されたのですが、当時三条商業に考古学の好きな先生が来られて考古学クラブが出来、そのクラブの人達が下田の方を調べてい

る時に発見されて一大発見として48年5月17日朝日新聞に発見した堀川という少年の名前と載りました。

とても価値の有る遺跡なのですがこれも長岡博物館にあるのです。発見した堀川君に言わせると寄付したわけでなく貸してくれと言われ、貸せただけなので三条にきちっとした施設ができれば返して貰わなくてはだめだ、と言っていました。④は弥生時代の鉄の斧ですが、これは残念ながら三条で出来たものではなく北陸の方辺りから伝わってきたものらしいのですが、県内でこうした鉄の斧が発見された一番古いものなのです。この頃に県内に鉄の斧が来たらしい証明になるのがこの弥生時代後期の鉄の斧です。それから⑤番のものは三王山古墳(保内)から出たもので左が斧、中が鏡、剣、右が首飾り。これが棺の中から出て来たのです。鏡は今の技術で複製して貰って資料館に飾ってあります。これは力のある位の高い人が当時住んでいたのではないかとされていますし、写真はありますが烏帽子も出ています。これは日本で3つしか無いものの一つが三王山の近くから出ています。⑥羽口(はぐち)は轡から鉄を溶かす溶鉞



②県内最多。現在全国的に注目。



④県内最古。



③約3,000年前の縄文時代の赤松遺跡(三条市大谷地字赤松)から出土した石でできた人形。全体の形は男性の象徴をかたどっていると考えられます。つりあがった目と眉、大きく開いた口など、縄文時代晩期の呪術的世界をよく表していると考えられます。岩偶の出土は土偶の出土よりも希少です。



⑤大和王権からの信認の証。

炉に風を送る管です。非常に高温になるものですから、これがもたなければ終わりになってしまいます。また鞆も大人2人が足を踏みながら大掛かりなものらしいのです。三条の場合は製鉄ではなくてどうも色々な鉄を持って来て純度の高いものすとか、炭素を加えて鋼のようなものにするとかに使われた羽口らしいのです。出雲の方にはたたらと言って安来ですか、大きな製鉄所が有って西日本の製鉄を全部作っていたといわれていますが、発掘されたのは出雲の方が早かったのですが、羽口が出るのが遅かった三条の方が年代別に見ると三条の方が古いらしい。この羽口を作る技術は三条のものが出雲に伝わり大々的なたたらという製鉄が行われたのじゃないかと言われている羽口であります。

最後⑦の大きな鍋です。鋳物師と書いていもしと発音するのですが、古文書によると大崎鋳物師というのがあって蒲原郡から古志郡までの鍋は全部この大崎鋳物師が作る権利を持っていたと出てきているので、この鍋は大崎鋳物師が作った鍋でないかと言われています。土偶と違って鉄の物が残っているのは非常に珍しいのだそうです。どうしてかというと鉄自体が貴重な商品であった為に壊れたりするとまた溶かして新しいものを作ってしまう。だから壊れた物がそのまま出てくるのは珍しい。これは縄文時代の頃から新潟県は会津の方と交流があったのが色々な遺跡の調度品から出てくるのでわかっているのですが、会津のお寺の鐘を大崎鋳物師が作ったと言われるものが今でもあるのです。こっちで作って向こうに持って行ったのじゃなく技術が有る事を請われて鋳物師が会津の方まで行って大きな物を作ったのではないかと言われています。縄文時代というのは大体今の日本が形成されていた感じで国後・択捉・歯舞・色丹辺りから沖縄までは非常に交流があって物が行ったり来たりやっていたようです。樺太には出

ないのだそうですが北方四島はこの時代から日本人のエリアだったといえますか交流の深い場所だったという事が遺跡を発掘していると分かるらしいのです。それから縄文時代は一年の中で過ごし難いのが夏だったのだそうです。秋になれば果物や色々なものが収穫できますし、狩猟には冬がいいのだそうです。下田の古老の話ではついこの前まで冬場山に入ると兎が持ってこれない程捕れたものだと聞いています。秋から冬にかけて等は食べるものに困らないが夏場が難しいらしい。だから縄文時代の夏場は小さな単位で分散していたらしい。しかも山と川が別々でなく海も含めて一帯でないと生活出来なかったらしいです。当時の三条の人たちは海側の寺泊や岩室等も活動の場としていたらしいので、これは早く縄文時代に戻って大きな合併をしていかなければいけないのでないのかなと感じています。どうして夏場に海とか川が無いと困るかと言いますと河鱈は縄文時代の人たちの食料の非常に大きな源泉だったらしいのです。だから川が無いとだめだし、海も今よりも豊で一メートル位の鯛の骨などが結構出るらしいのです。栗なども今より大きく栗の林なども貯蔵すると言う事で大きな意味があったらしくて、今年は出来が悪かったでは困る訳ですから何等分かにして順番にして収穫できるような使い方をしていたようだと遺跡を見ると分かるのだそうです。7.13水害の時一日で一年分の塵が出た訳でどうやって処分するか苦心したのですが、米沢に大きな山を掘った跡があってそこで埋めてくれるよと話があり助けて貰ったのです。その際決りがありまして他所に塵を捨てる時には間違いなく自分の町のが捨てられているという事を市町村長が直に行って書かなければいけないとのルールがあるのです。それで米沢に行って市長さんにお会いし30分くらいお礼を言って雑談をしていたのですが、先方の市長が昔から米沢と三条は非常に交流があっ

⑥800年前 羽口
鎌倉時代



⑥出雲の製鉄のルーツとも言われている。

⑦600年前 鉄鍋
室町時代



⑦古文書には越後の国の蒲原郡、古志郡の鍋の生産権を大崎鋳物師が持っていたとされています。この鉄鍋も大崎鋳物師が作ったと思われます。

たという話しをされました。聞くと南部の鉄を牛の車に牽かせて米沢経由で三条に持ってきたらしい。大崎鋳物師が使っていた鉄は南部から運ばれてきて三条で鍋などに生産していたらしいのです。牛に牽かせて来た車に帰りは三条の品物を積んで戻ったのかもしれませんが。米沢で疲れた牛を買い取り一年美味しいものを食べさせて牛肉にしたのが今の米沢牛に繋がっていてだから米沢牛の元は南部の鉄を運んだ牛なんです。闘牛は今、見せ物の様になっていますが実用のものでして、牛で物を運んで行く時牛のリーダーを決める為にあった実用的なもんなのです。と言われました。そんな事を見てきますと石器時代もそうなのですが下田にナイフだとか鎌だとかを自分たちが使うだけでない程出ているので、多分専門に作る人達がいて他所に販売していたのでないのかとか、土偶も沢山出てくるのは祭事用に使ったのかも知れないし、もしかすると沢山作って他所に販売しておったのじゃないかと言われています。近い時代では19世紀末には北前船で京の呉服が来る。その呉服の生地を使って足袋だとか染め物をつくる。関東大震災以降は金属産業のカタチの中で大工道具だとか色々なものを作る。

この地域は一万年とか二万年前から鉄あるいは土、布と素材は変わるけれども素材を加工してお金を儲けてきた町だと思います。外からおいでになった人に350年位前から和釘をはじめとか説明をしていましたが、新三条市になると一万年前からこのように作っている町なのですよと説明をしないと間違いになると考えてます。これから鉄でなく新しい素材で新しい次の6番目の産業のようなものが出来てこの町を引っ張って行ってくれたらと考えています。ご静聴ありがとうございました。

次週例会 1月20日

外部卓話

第2560地区 パストガバナー 馬場信彦 様

於 三条ロイヤルホテル

※1月20日(水)は例会場信金本店が使用できないため、三条ロイヤルホテルに変更となります。お間違えのないようお願い致します。

次々週例会 1月27日

会員卓話 斎藤弘文 会員

